

未来へつなごう私たちの宝

福津市に世界遺産を! vol.10

○最優秀賞 遠くに霞む神宿る島 石田裕子さん



「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の魅力を伝える

福岡県・宗像市と福津市が協同で世界遺産登録活動を行っている「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議では、『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の魅力を多くの方に知っていただくためのフォトコンテストを開催し、入賞作品が決定しました。

石田さんの「遠くに霞む『神宿る島』」が最優秀賞を受賞されました。遺産群を後世へ守り伝える3部門ごとの優秀賞と入賞作品13点も決定しました。ここではその一部を紹介します。



推進会議会長の小川知事から表彰状を授与される石田裕子さん

○優秀賞(未来につなぐ遺産の風景部門) 勇壮「みあれ祭」 香月常治さん



○優秀賞(守り伝える地域の活動部門) かかし祭りの見学 沖永豊子さん



○優秀賞(発見!沖ノ島選択スポット部門) 榎崎神社前からの沖ノ島 正岡功さん





○入賞 墳墓の踊り子たち
高田尚雄さん



○入賞 今!古代は語る
野口浩光さん



○入賞 新原・奴山古墳群
与儀拓也さん

※入賞作品のうち、新原・奴山古墳群の写真を紹介しています。

■東京で「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のPRをしました

世界文化遺産登録を推進するためのシンポジウムが2月11日東京国立博物館で開かれ約350人が参加されました。

「地元以外で行うシンポジウムは、平成23年2月に東京の日経ホールで行って以来5年ぶりとなります。来年夏の登録に向けて東京での気運を高めるためのシンポジウム開催です。西谷正九州大学名誉教授による構成資産の価値を紹介する基調講演が行われ、続いてこれまで推薦作業に関わってこられた世界遺産専門家会議委員の5人による「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産として価値についてのパネル



シンポジウム



交流会で地元PR

ディスカッションが行われました。

「島において生まれた自然信仰を発展させてきたことが重要」「推薦書を出して終わりではなく、これからはユネスコへこの資産が世界遺産登録にふさわしいという声を発信することが大事」などの意見が出されました。

その後は文化人やメディア、企業人を招待しての交流会を開催して、遺産群の紹介と宗像・福津の魅力についてPRを行いました。

■九州国立博物館で講演会とパネル展を開催しました



正倉院の説明風景

2月13日、太宰府市の九州国立博物館で世界遺産推薦記念の講演会がありました。

沖ノ島では、ペルシャからシルクロードを通ってもたらされたガラス碗をはじめとする多くの品々を神にささげられていた事が明らかになっています。そのため沖ノ島は、同じようにシルクロードを通ってもたらされ、天皇へ献上された数多くの宝物を収める東大寺の正倉院にちなんで「海の正倉院」と称されています。講演会では沖ノ島で捧げられた遺物と正倉院に収められた宝物の比較や古代の文化交流についての講演が行われ、約250人が熱心に聞き入りました。

会場前のエントランスホールでは2月9日から遺産群のパネル展示とフォトコンテストの受賞作品の展示が行われ多くの方が見学されました。講演会の冒頭にフォトコンテストの表彰式が行われ、受賞作品の紹介と最優秀賞を受賞された石田裕子さんへの表彰が行われました。



パネル展示風景